

授業科目	解剖学基礎実習				
担当者	相原一貴・柳千磨・津村宜秀（すべて実務経験者）			（オムニバス）	
実務経験者の概要	相原：リハビリテーション分野における基礎研究に従事している 柳：病院・介護保険施設等における臨床経験を積んでいる 津村：急性期及び生活期病院での理学療法業務に従事しており、神経機能解剖学に基づく理学療法の検討を行っている				
学科名	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

上下肢の骨・関節・筋、体幹の骨・関節・筋について、骨標本や体表解剖学などを通して学ぶ。

■ 到達目標

運動器系解剖学の基礎的知識を身につけ、それを骨標本・身体に適用することができるようになる。

■ 授業計画

- 第1回 全身骨格とその分類：
全身骨格・軸骨格・付属骨格の分類、全身骨格の組み立て
- 第2回 上肢帯骨と体表解剖学：肩甲骨と鎖骨の理解
- 第3回 自由上肢と体表解剖学：
上腕骨・橈骨・尺骨・手指骨・手根骨の理解
- 第4回 上肢の関節と靭帯：
肩関節・腕尺関節・腕頭関節・橈尺関節・手関節・手根中手関節・中手指節関節・指節間関節の理解
- 第5回 胸郭と体表解剖学：
胸骨・肋骨と肋軟骨の理解
- 第6回 脊柱と胸郭の連結：
椎骨間の連結・椎間板・環軸関節・胸郭の連結の理解
- 第7回 下肢帯骨と骨盤：
寛骨・腸骨・坐骨・恥骨の理解
- 第8回 自由下肢骨：
大腿骨・脛骨・腓骨・膝蓋骨・足の骨の理解
- 第9回 股関節と仙腸関節：
股関節・仙腸関節の構造と動きの理解
- 第10回 膝関節、脛腓関節と足関節：
膝関節・脛腓関節・足関節の構造と理解
- 第11回 脊柱と体表解剖学：
椎骨の基本、頸椎・胸椎・腰椎・仙椎・尾椎の理解
- 第12回 頭蓋骨①： 頭蓋骨を構成する骨とその連結
- 第13回 頭蓋骨②： 眼窩・鼻腔・副鼻腔・側頭下窩・翼口蓋窩・顎関節の理解
- 第14回 総まとめ
- 第15回 実技試験

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）40%】 小テスト（40%） 実技試験（20%）

正当な理由のない欠席や遅刻については減点とする。（欠席：-2点、遅刻：-1点）

また、提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象（1回：-5点）とする。講義内テストを含む全ての試験の際に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

1年次に学んだ運動器系の解剖学の内容が大半を占めています。実際の骨標本を使用し理解を深めるためにも、予習として運動器系の解剖学での内容を振り返り講義に臨んでください。また、毎回講義内容の定着度を測る為、次の講義の冒頭に小テストに臨んでもらいます。

■ 教科書

■ 参考図書

書名：標準理学療法学・作業療法学【解剖学】

著者名：（編）野村 巖

出版社：医学書院

書名：プロメテウス解剖学アトラス【解剖学総論運動器系】

著者名：（監訳）坂井 建雄，松村 讓兒

出版社：医学書院

■ 留意事項

身体の触知等を行うため、身体を触り易い服装で臨んでください。

準備物等の連絡は Moodle を通じて行うため、各自必ず確認してください。

■ 講義受講にあたって

やむを得ず講義を欠席した場合は、数日中に講義資料等を必ず取りに来てください。